

## 東大三国プロジェクトとは？

東大三国プロジェクトでは、東京大学都市デザイン研究室のメンバーが、2014年より地元の方の協力を得ながら三国のまちの研究を行っています。それ以来、三国の方々と交流をしながら活動を続けています。

## 引き続き空き家募集中！

私たちは、空き家活用の可能性を探るべく、引き続き空き家を募集しています。三国のまちなかに今は使っていない家をお持ちで、「ちょっと中を見せるくらいならいいよ！」という方、今後どうするか決めていない家をお持ちの方がいらっしゃいましたら、お気軽にご連絡ください。

2016年のみくにぐらしは、今号で出し納めとなります。今年1年、大変お世話になりました。良いお年をお過ごしください。

三国で暮らすことへの未来を考えるフリーペーパー  
「みくにぐらし」vol.4 2016年12月発行

三國湊町家PROJECTの  
facebookでも随時発信中！



東京大学工学系研究科都市工学専攻  
都市デザイン研究室 三国プロジェクトチーム  
東京都文京区本郷7-3-1 工学部14号館906号室  
03-5841-6224

Web : <http://ud.t.u-tokyo.ac.jp/ja/>  
Mail : [mikuni@ud.t.u-tokyo.ac.jp](mailto:mikuni@ud.t.u-tokyo.ac.jp)



## 特集「三国に暮らしたい！」 No.1 大柴ひとみさん

### 三国町のみなさま、

東京もめっきり寒くなりましたが、いかがお過ごしでしょうか。私たちは今から、冬の三国を訪れることを楽しみにしています。今回は「みくにぐらし」、つまり三国のまちなかで暮らすことを目指している、三国町出身の若い方にお話を聞きました。熱い思いをお読みいただくと嬉しいです。

## みくにぐらし 特集 三国に暮らしたい！

このコーナーでは、三国プロジェクトが出会った三国を愛する人々のうち、三国のまちなかへの居住や出店を本気で考えて場所を探している方についてご紹介します。

No.1

大柴 ひとみさん

三国町 出身  
三国高校家政科 卒業  
三国町緑ヶ丘 在住

「歴史ある町家で  
手作りのアクセサリーを  
販売したい！」



### 私のプロフィール

ふるさとの三国には、たくさんの思い出と誇りがあります。

今も昔も、三国祭は3日間全部見に行っています。段ボールで作ったゴミ箱のゴミ袋を変える当番が当たり前で、今でも小学生が工夫をこらしたゴミ箱を見ると懐かしくなります。

放課後や習字帰りにおこづかいを握りしめてコロッケ屋さんや駄菓子屋さんに走ったり、制服のまま裸足で海で遊んだり…私にとって三国は、いっぱいの“楽しい”思い出であふれている、大好きな故郷です。三国の人は“三国”という土地に住んでいることに誇りを持っていて、その想いが“三国”ブランドを作っていると感じます。福井市とも坂井市とも違う“三国”に生まれ育ったことが、私の自慢であり誇りです。

わくわくドキドキするアクセサリーをつくっています。

私は今、手作りのアクセサリーを制作・販売しています。きっかけは3年前、手作り市の教室でピアスを作ったことです。そこでアクセサリーを自分で作る・手作りのモノを着ける楽しさを知りました。それから夢中になって趣味になり、高じて仕事になりました。

私の作るアクセサリーのコンセプトは「わくわくドキドキを日常に」です。普通の日が、アクセサリーを着けることでわくわくして、出掛けるのがドキドキしてくるような、シンプルだけど少し個性的な、自分だけのアクセサリー作りを心がけています。



## 使っていないお家を探しています

「三国に暮らしたい！」で取り上げる方々は、三国のまちなかで暮らし、働くことを真剣に考えていますが、出回っている情報が少なく、まだ場所を見つけられていません。「この人にだったらうちに住んでもらいたい」「この人が使えそうな家近くにある」といったご意見は、実現のための貴重な一歩になります。ぜひご連絡をお願いいたします。

連絡先

03-5841-  
6224

(東京大学  
都市デザイン研究室)



何回もイベントに来てくれるお客さんもいます。「また来たいと思う、人とのつながりを大切にしたいお店にしたいです」

### 「三国暮らし」への夢

歴史ある建物を、誰もがアクセサリーを作れるお店にしたい。

私が作ったアクセサリーをいつでも展示できる場所が欲しい、教室を開いてたくさんの人に作る楽しさを知ってほしいという思いから、ふるさとの三国で店を持ちたいと考えました。歴史ある町家で手作りのアクセサリーを売る、新しいお店です。中に入ると、たくさんのビンに入ったビーズがずらっと並んでいて、そこから自分だけのアクセサリーを作ることができる場所があるのです。



町家をお借りして、住居兼店舗として使えるのが夢です。もし古い家具が残っていたらお店で使いたいし、建物が壊れていたら、なるべく“自分達の手で”改修したいです。お店ができれば、作品市のようなイベントを定期的にかけて、私の活動をきっかけに若い年齢層の人が三国にもっと来てくれるようにしたいです！

